

キラリ輝いています！

エミー賞受賞！ 本物より本物らしい音を求めて

世界に認められた効果音を生み出す職人

小山 吾郎さん（カナダ在住）

スタジオで効果音を入れる作業中の小山さん。アクション映画の音付けでは、車を持ち込んで、その上で飛び跳ねることもしばしば。

これまでブラッド・ピット出演の映画「ツリー・オブ・ライフ」、3月公開予定のデンゼル・ワシントン主演の「フライト」など、200本以上の作品に携わっている。

■エミー賞の栄誉に輝く

世界から注目を集める最強の裏方がいる。毛呂山町出身の小山吾郎さんは、カナダ在住のフォーリーアーティストとして名を馳せている。昨年、テレビ界のアカデミー賞と称されるエミー賞のクリエイティブ・アーツ部門（番組を裏で支える技術者らに贈られる賞）で小山さんが制作にかかわったテレビ映画『ヘミングウェイ・アンド・ゲルホーン』が最優秀音響効果賞を受賞した。特殊なスタジオで、様々な小道具を使って、ありとあらゆる音を作り出すのがフォーリー（効果音）アーティストの仕事。その音は、日常的な環境音から宇宙怪獣との戦いまで様ざま。足音の録音作業が大半を占めるというが、スタジオにはスリッパからスパイクまで約300足の靴が並ぶ。「今回受賞の作品では、打ち損じた原稿をハラリと床に落とす音にかなりの時間を割きました」と苦労の一端を話す。

Goro
Koyama

Foley Artist

■生音の世界に魅せられて

子どものころ、「ロッキー」を見てアメリカ映画に興味をもったのが原点。高校卒業時、映画制作を学べるカナダオンタリオ州の大学への留学を決意。映画監督をめざした。「当時は、英語の授業についてくのがたいへんでした。でも、家族の反対を押し切って出てきたので必死でした」と話す小山さん。大学を卒業後、なかなか就職できない日々が続いたが、カナダのフォーリーの第一人者アンディ・マルコム氏との出会いが運命を変えた。「これだ、これが俺がやりたい事だ」とその魅力に取り付かれ、彼の下で修行を重ねた。

この仕事に就いて18年。音響監督から理不尽な要求もあるというが、デジタル化の時代にあって、手作りの良さを伝える貴重な仕事。録音を単なる作業ではなく、作品を楽しむようにしていると作り手の良さを話します。今後は、ライブ上映会など、スクリーン以外の場所でも、たくさんの人に音を届け、さらには家族向けの作品も手掛けたいと語る。

■音で伝える想い

10代でふるさとを離れ、懸命に生きてきた小山さんだが、ふるさとへの想いは強い。「毛呂山は僕にとっても大切な家であり、学校でもあります。ふるさとがあるということとは、とても幸せなことだとつくづく感じています」。さらに、父親への思いは特別なものがあるという。「僕にとって父の存在は大きい。一番身近なヒーローであり目標です。いつか親父になぞかしたい」と話す小山さん。留学に反対した父親が病を患い、視覚に障害をもってしまったが、それゆえに音の世界で認められたことの意義は大きいと語る。

今は家庭をもち、親となった小山さんだが、大家族で郷土料理の「ひぼかわ」の鍋を囲んで食べた味は今でも忘れていないという。ふるさとへの想いを込めて、さらなる生音の世界を極めてほしい。



フォーリーアーティスト
Foley Artist

小山吾郎さん
毛呂山町出身、39歳。カナダトロント郊外に家族5人で在住。フォーリーとは、映画やドラマで撮影後に入れる効果音のこと。日本では生音と呼ばれる。フォーリーアーティストは、身近にある小道具を使ってあらゆる効果音を生み出す職人である。